

## 訂正文

### 【正誤表】

### 【新稿】

#### 第1巻

姉齒 三郎

1巻97頁左21行目

あねや・さぶろう あねは・さんろう

1巻97頁左22行目

1916 - ? 1916.7.11 - 1982.9.25

1巻97頁左下から9行目～右1行目

[一部削除]「姉齒は彼の影響下にあった朝鮮人に、元日本の留学生で中国共産党に關係する人物との連絡を意図した手紙を託し帰国させようと試みていたが、この人物が閔釜連絡船の検問を受けた際、手紙を憲兵に没収され、この結果姉齒は憲兵隊に身柄を検束された。更に『コンサイス英和辞典』の中に隠匿していた住所録を自宅搜索の際発見され、それがかつての研究会メンバー、關係者14、5名が一網打尽にされたのであった。」を削除

1巻97頁右18～20行目

社会主義陣営の中での中ソの反目・対立が激化するに伴って離党。離党し、50年以降、執筆活動と地域の平和運動や民主的運動を続けた。

1巻97頁右20～29行目

[一部削除]「60年代に入ってから、各企業内で党活動が続ける共産党關係者の名簿を作成し、これを企業上層部に売り渡し収入を得ていたといわれる(寺尾五郎談)。そこにはかつての党の理論的活動家としての面目はなく、変貌・屈折した人間の生きざまが見られた。元来、筆の立つ人物であったが、晩年はこれを利用して、左翼組合運動の陰の部分で文筆活動などに従事しており、個人名で表面に出ることは少なかった。」を削除

姉齒 三郎 あねは・さんろう

1916.7.11 - 1982.9.25 労働運動史家 元『前衛』編集局責任者 (学歴) 早稲田大学商学部卒 (団体) 早稲田大学内非合法グループ (特高による呼称), 日本共産党

姉齒仁郎の弟。1941(昭和16)年3月、早稲田大学商学部本科を卒業。商学部で日本経済史などを講じていた入交好脩教授の助手となり、早大に残り研究生生活に入る。42年春頃より寺尾五郎、宮直治ら早大弁論部内の左翼学生グループ、及び浅田光輝、岡夏樹、秋山博一らの慶応大学日吉哲学会に属した学生らと共に、資本論並びに日本資本主義発達史の研究会を大学内外でもち、その中心的存在となって活動をリードした。44年12月、治安維持法違反などに問われて検挙された。寺尾五郎がチチハル、宮直治が青森の大湊の砲兵部隊、阿部博(府立九中卒、早大専門部卒、戦後日本共産黨員。国際派に属し活動)が満州・奉天の陸軍部隊に、吉沢忠久は兵庫県の陸軍部隊、前田慶穂が海軍でそれぞれ検挙されるに至った。また、辻英太、国峰実、幾石致夫らの民間人も相次いで検挙を受け、林鳳俊、金虹泰という2人の朝鮮人も含まれていた。憲兵隊には検挙が内地と外地にまたがっており、陸軍と海軍に、軍と民間を交え、朝鮮人と中国人を含む一大事件として映じており、大騒ぎとなっていた。憲兵隊によって検挙された姉齒らは九段・憲兵隊分隊の地下留置場に拘留された。戦後は日本共産党に入党。文才を認められ、『前衛』編集局の責任者となり、党の理論活動に貢献した。しかし、その後離党し、50年以降、執筆活動と地域の平和運動や民主的運動を続けた。主著に『ファシズム』(ナウカ社、49年)、鉄鋼労連特殊鋼労働組合編『続・闘いの歩み 日本特殊鋼労働組合32年史』(77年)ほか多数。(本村四郎)

[参考文献] 寺尾五郎 降旗節雄対論『革命運動史の深層』谷沢書房 1991年